

# 牛久：学校周辺に見る自然

第26号 牛久市観光アヤメ園～牛久城址

2016年3月8日発行

## ＜ 冬の自然観察 ～牛久沼沿い ③植物 ＞

皆さん、こんにちは。冬の牛久沼沿い（アヤメ園～牛久城址）、今回は植物です。

この観察コースでは、草や木のいろいろな冬ごしのようすを観察できました。



草の仲間には種子だけで冬を越す一年草、秋に芽ばえあまり大きくなないうちにロゼットなどの形で越冬する越年草や多年草などがありますが、この日はいろいろなロゼットが見られました。中には赤や紫、朱色に美しく紅葉しているものもあり、寒さに耐えながらじっと春を待つ植物たちの一面を見ました。



いろいろなロゼット：ヤブジラミ(上)；紅葉したのと緑の葉のものが隣り合って広がっていた。  
スカシタゴボウ(中左)；湿った土地に多く、整った形。緑色のものも見られた。  
オニノゲンシ(中右)；葉の切れこみの深さはいろいろで、紫に紅葉したものも見られた。  
キツネアザミ(下左)；大きく、整った形。葉の切れこみが深く、裏は白い。  
オニタビラコ(下右)；タンポポに似るが、細かい毛がありやや白味がかって見える。



葉の広がり方からロゼットとはよべませんが、それに近い形で冬を越すものも見られました。

コナスビやヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリなどです。やはり赤や紫、朱色に色づくものも多く見られました。これらの植物たちは、すでにある程度成長しているのて、春に暖かくなると一気に成長し、花を咲かせ、子孫を残すことができるのです。

ロゼットに近い形で越冬するコナスビ(上)、ヒメオドリコソウ(下左)、オオイヌノフグリ(下右)。



一般には早春の花ですが、陽射しがあるとま冬でも花を咲かせる植物たちもいます。オオイヌノフグリやホトケノザなどです。探すときつかりますよ。午後になると花を閉じてしまうものもあるので、なるべく午前中に、暖かくしてお出かけ下さい。

陽射しがあれば、ま冬でも咲くオオイヌノフグリ(上)、ホトケノザ(下左)、コハコベ(下中)、オニノゲシ(下右)。





同じく、暖かい日にはま冬でも咲くナズナ(左)、セイヨウタンポポ(右上)、タネツケバナ(右下)。

他の植物たちがじっと冬の寒さに耐えているころ、今が盛りと花を咲かせるものもあります。代表的なのがヤブツバキでしょう。主にヒヨドリやメジロなどの鳥たちが花粉を運ぶので、花卉の色も鮮やかな赤だし、蜜もたくさん用意して待っています。



今が盛りとまっ赤な花卉に黄色い雄しべの大きな花を咲かせ、たっぷりの蜜を用意して鳥たちを待つヤブツバキ。



まっ赤な実をつけて鳥たちを待つマンリョウ(左)とその葉(中)、葉のふちの拡大(右)。

こちらは蜜ではなく、おいしそうな実をぶら下げて鳥たちを待っています。が、あまりおいしくはないのか、たくさんは食べないようです。おもしろいのは、このマンリョウの葉。ふちの丸い波もよりの谷部分に点のようなものが見えますが、この中にすむ細菌が空気中の窒素を肥料に変えてマンリョウに与えているのだそうです。逆にマンリョウは細菌に栄養分の一部を与えているようで、こうした関係を「共生(きょうせい)」とよんでいます。



暗い緑が前葉体、明るい緑は若いシダ(上2枚)。  
左はコスギゴケ。  
どちらも葉緑体があって光合成をし、胞子で増える。



中学生の皆さんなら、これら3枚の写真が何か分かるでしょう。そう、上2枚はシダの前葉体から幼植物が出てきたところ。左はコケ植物のコスギゴケで、細長い柄の先についているのが胞子のうです。



最後に、田んぼのふちに積まれていたのは、枯れたヨシを刈って束ねたものでした。牛久沼の水の汚れを微生物が分解したものを、ヨシはどんどん吸収して成長します。枯れたまま放置すると汚れが戻ってしまいますが、こうして刈りとって利用することで、水はきれいになっていくのです。【理科支援員：宮内】

刈りとられたヨシ。沼の水をきれいにしてくれる。